

まえがき

インテリアデザインの仕事をして27年が過ぎていきました。インテリアとは何かという真理の意味もわからないまま、自分にとつて身近であつた職業から始めた仕事です。それは、とてもなく奥が深く追求、探求しなければ理解できない分野であることに驚き、さまざまつて歩み続けた数年でもあります。単純に家具やカーテン、室内に施されているモノがインテリアと捉えるのではなく、人間とモノの関わり、心理から導き出されたイメージの表現、心地よい色や光、素材やフォルムなどは住み手の芸術、美学そのものなのではないかと思うようになったのです。

「インテリア」という言葉に隠された意味は、精神性を表現し形にしたモノだと気づいたことから、人間の心の豊かさや生活の質の向上、最終的には生き方、目に見えない世界とのつながりがあるということに至つたのです。

人間の魂の喜びや幸せは、どのようにして感じとれるのか。真の幸福や安らぎはどのように得られるのか。また何かを学ぶことで、心のあり方、目に見えるさまが変わり幸せを感じるのか。

誰もが幸せを実感したいといつも追求しているように思うのです。これらは、インテリアによってその気づきを与え、始まり、生まれるものであるように思えます。

私たちが考えている以上にインテリアは、人の文化を背負い、もしかすると前世までをも解明することで心地よさを手にすることができのかもしれない。

住み手の生き方、考え、生活スタイル、志向性が表現された唯一無二の形こそがインテリアを作り出すのであれば、そのプロセスから学び、気づくことができます。生き方や考えは相対的な捉え方ではなく、自分を自分らしく生きること自信や幸福感を持つことになり、自分の輝きを作りだすきっかけになると思うのです。住み手の「らしさ」が反映するインテリアこそ、自分の心を映し出すキャンパスであり芸術だと思っています。

この世に肉体を持つて生まれたのであれば、誰もが幸福を手にする道を知る権利があり、自分らしく生きることが家族や周りの人々に多大な影響を与えてアメーバのように増幅してくれます。

また次世代の子どもを教育する立場の人であれば、毎日の生活そのものが自然に与える教育になります。

美しいインテリアの中で育つ子どもは、審美眼が自然に身につき、また毎日の食事の配膳に

美しい布が敷かれ、暖かな照明と花が添えられていたのなら、それが普通であり、当然として育ちます。

暮らす空間が単なる家という箱ではなく、豊かな心と暮らしがオーラを放ち幸福を引き寄せてきます。

そんな生き方を一人でも多くの人に知っていただくことを願い、インテリアの本質である自分らしい生き方のスタイルを気づき見つけてほしいのです。